

平成30年2月15日(木) No.423



からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校

里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 048-284-1010

1年180名 2年153名 3年156名

<http://sato-chu.com/>

中学生の「努力」

校長 高田 晶子

立春が過ぎ暦の上では春ですが、低温の日が長く続き、暖かな春の訪れを心待ちにしています。そのような中で里中学校の生徒たちは、全国的に猛威を振るうインフルエンザの流行にも負けず、朝の元気なあいさつから始まり、集中して学習に取り組んでいます。頼もしいその姿を見ると、とても心温まります。公立入試本番直前の、3年生の引き締まった顔つきには逞しさを感じます。



さて、3年生の校長面談の中から「好きな言葉」について少し触れてみたいと思います。答えてくれた中で多かったのは、「努力」という言葉でした。理由は、必ず実る。裏切らない。報われる。可能性が広がる。結果がついてくる。などをあげてくれました。普段の生活の中で、「努力」をした経験から結果を出し、好きな言葉になった人が多かったようです。辞書には、「ある目的を達成するために、気を抜かず、力を尽くして励むこと」とあります。

では、なぜ中学生が「努力」という言葉を胸に秘めて頑張れるのか？考えてみました。比較的安易に使われる言葉でもあります。年齢の上の者が下の者に「努力が足りない」「もっと努力しなさい」というのを聞いたことがあると思います。これは励ましを込めた言葉として使われるのでしょうか。しかし、言われて「はい、そうですか」と頑張れる人もそう多くはないでしょう。それは、頑張ることを続けていかなければならないからです。結構、大人には苦手なことです。中学生は、「そうか、努力が足りないのか。」と素直に受け止める力を持っています。

そこで大切なのが、目的や目標を持つということです。中学生は、未経験の世界にチャレンジしていきます。どんどんチャレンジします。そのエネルギーは計り知れないものだと思います。少し経験を積んでしまった大人は、上手に手を抜く、力を抜く、要領よく振舞うことをします。しかし、中学生は違います。いかに目的が明確で、目標が具体的かということで「努力」ができるのです。里中生の姿から実感しています。

今年度もあと一ヶ月余りとなりました。40期生の巣立ちと41、42期生の進級を控え、それぞれの目標に向かい「努力」する里中学生で溢れています。ご家庭での様子も成長が感じられることがあると思います。いかがでしょうか。子どもたちの1年間の「努力」の成果を話題にしてみてください。きっと「努力」のあとには、さわやかな笑顔が待っているように思います。